

令和7年度川崎市公園緑地等整備計画推進委員会 第1回夢見ヶ崎動物公園再整備検討部会

夢見ヶ崎動物公園再整備計画（素案）

目次

1. はじめに	1
2. 現況の整理	
2-1. 夢見ヶ崎動物公園の現状	3
2-2. 利用実態	4
2-3. 連携協働の取組	5
3. 夢見ヶ崎動物公園の課題	6
4. 再整備の方向性	
4-1. 再整備の方向性	7
4-2. 課題と再整備の方向性の整理	8
5. 目指すべき将来像	9
6. 再整備の基本的な考え方	10
7. 基本方針	12

Point

夢見ヶ崎動物公園再整備計画骨子

構成

1. 夢見ヶ崎動物公園再整備計画の策定の趣旨	5. 再整備のイメージ
1-1 再整備計画策定の趣旨	これまでの歩みと再整備のイメージ
1-2 位置づけ	
1-3 対象区域	6. 再整備の基本的な考え方
1-4 計画期間	6-1 将来像と再整備の方針
2. 夢見ヶ崎動物公園の現状	6-2 ゾーニング
2-1 動物公園の特性	6-3 飼育動物のこれからの視点
2-2 市民活動・協働	7. コレクションプラン（飼育動物種の継続計画）
2-3 来園者数	7-1 コレクションプランの考え方
2-4 入園料・収支の状況	7-2 コレクションプラン案
2-5 動物園としての機能・役割	
3. 夢見ヶ崎動物公園の課題	8. 各施設の整備計画
3-1 社会変容による市民ニーズの変化から見える課題	8-1 既存施設の整備と導入施設
3-2 施設の老朽化や不足による課題	8-2 整備スケジュール
3-3 サービス面の課題	8-3 段階的整備の考え方
3-4 持続可能な管理運営体制の構築に向けた課題	
4. 夢見ヶ崎動物公園の再整備の方向性	9. 再整備の進め方
再整備の方向性：老朽化等により低下した魅力の向上及び 社会変容に伴う市民ニーズ変化等に応じた再整備	9-1 管理運営手法の検討
	9-2 事業スケジュール

8. ゾーニングなどについて	
8-1. ゾーニング及び主要な導入施設の概要	15
8-2. 動線	16
8-3. 植栽について	17
9. 施設配置計画	
9-1. 緑と人の出会いゾーン	18
9-2. 人と人の出会いゾーン	19
9-3. 人と生きものの出会いゾーン	21
10. 段階的整備及び概算事業費	
10-1. 段階的整備の方針と手順	25
Point 10-2. 概算事業費と整備概要	26
11. 事業手法	27
12. 運営手法	28
13. 事業スケジュール	30

背景と目的

夢見ヶ崎動物公園（以下、「夢見」という。）は樹林に囲まれた標高35mの加瀬山に位置します。広場、動物、植物、古墳などの歴史資源を有する地区公園です。

平成30年3月に策定された「夢見ヶ崎動物公園基本計画」では、公園の特色を活かしながら、幅広い世代・分野の人々がつながり、生きものへの理解を通じてのちの大切さや生物多様性と恩恵を学び、地域に愛され、賑わいをもたらす持続可能な夢見ヶ崎動物公園の実現を目指して、将来像や基本コンセプトなどを定めています。

近年では新型コロナウイルス感染症による影響や脱炭素社会実現に向けた取組、オープンスペースの多様な利活用ニーズの高まりなど、様々な社会変容が見られたことから、令和4年8月に「夢見ヶ崎動物公園再整備の基本的な考え方」として再整備の内容を見直し、これをもとに市民意見の収集、民間事業者との対話を重ね、令和6年度に「夢見ヶ崎動物公園再整備計画骨子」を策定しました。

本計画は、これを踏襲しながら、都市公園としての役割を改めて見直し、地域の拠点としての新たな可能性についても考慮し、動物展示施設および公園施設の配置、より具体的な整備内容、事業推進や管理運営の手法などについて示しています。

整備は直近5年間の視点に加え、中長期的な視点も踏まえて行います。

整備開始～5年間の視点	<p>飼育環境や魅力を向上させる整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サル舎 ・小動物及び家畜舎 ・インコ舎 ・バックヤード（動物病院・調理施設） ・各種設備 など
中・長期的視点	<p>動物飼育状況に応じた整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい動物の導入検討 ・飼育を終了する種の将来的な動物舎の活用方法の検討 ・効果的・効率的な管理運営を見据えた機能拡張

概況

昭和25年に開設され、昭和47年に動物の飼育・展示を開始しました。標高35mの丘陵地（加瀬山）に立地し、平坦な市街地に浮かび上がる緑の島のようになっています。市内で唯一の動物公園として、また、古墳など歴史資源を有し、春のお花見・散策・遠足・地域の行事など四季を通じて幅広く利用されています。



【概要】

所在地：幸区南加瀬1-2-1

公園面積：6.6ha

公園種別：地区公園

開設日：昭和25年4月1日

展示開始：昭和47年11月22日

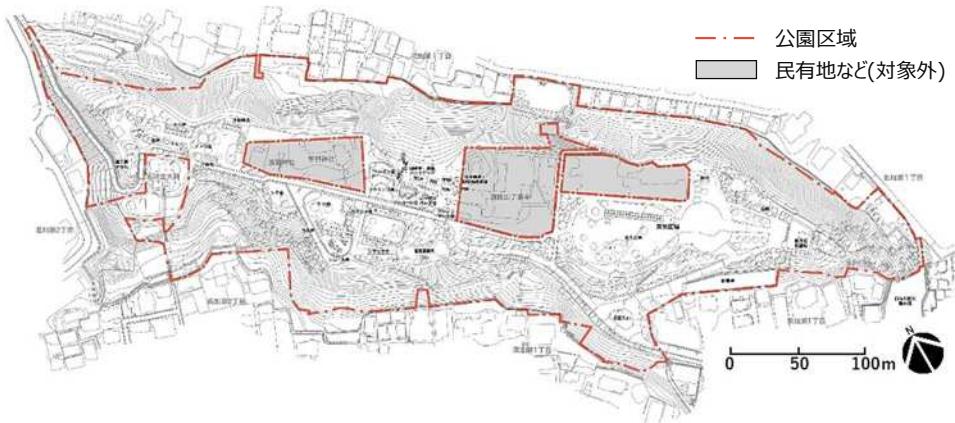
展示動物：51種280点（令和7年3月時点）

入園料：無料



対象区域

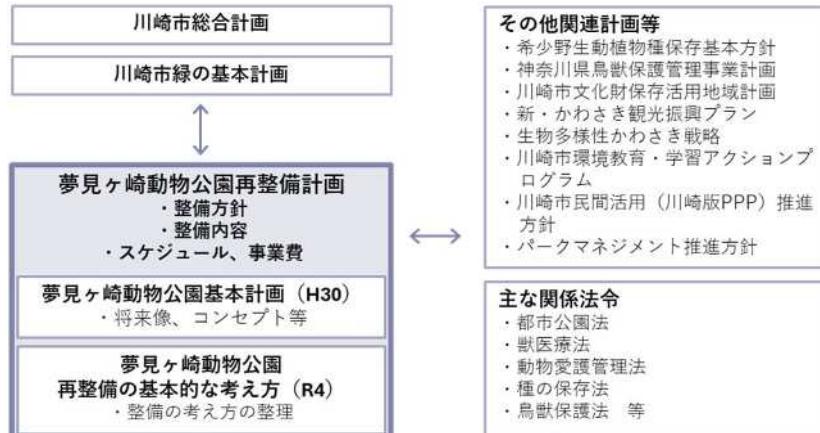
本計画は、民有地などを除く、**夢見ヶ崎動物公園全体を対象区域**とします。



上位関連計画

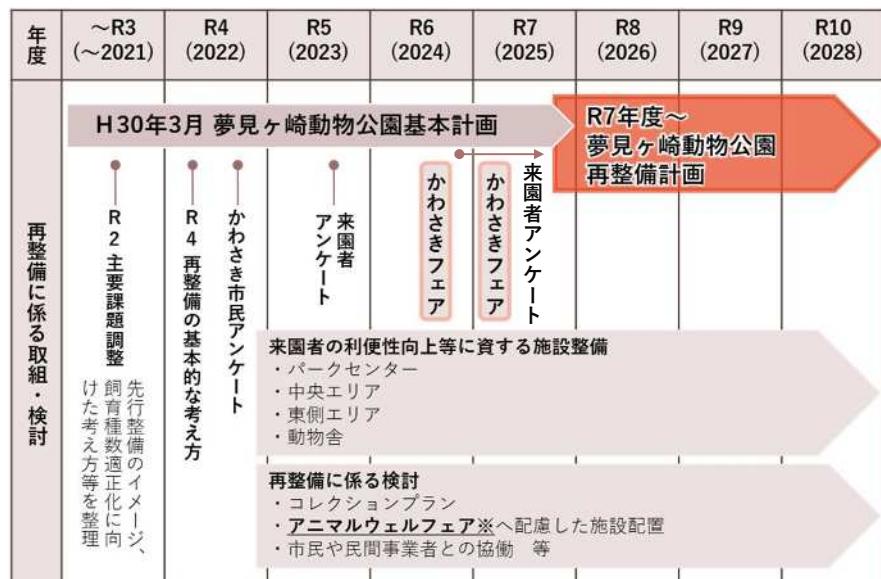
本計画は夢見ヶ崎動物公園基本計画をはじめとする**関連計画との整合を図りながら策定**するものとします。

■上位関連計画



検討の経緯など

平成30年度に「夢見ヶ崎動物公園基本計画」を策定した後、コロナ禍やアニマルウェルフェア※への関心の高まりなど社会変容に合わせた計画の見直しを行い、令和4年度に「夢見ヶ崎動物公園再整備の基本的な考え方」をまとめ、「動物福祉とふれあいなどに関わる検討」としてコレクションプラン作成などに着手、令和6年度に本計画のベースとなる「夢見ヶ崎動物公園再整備計画骨子」をとりまとめました。



※**アニマルウェルフェア**：飼育および展示における個々の動物の身体的および心理的状態のことをいう。日本動物園水族館協会（以下、JAZAという。）のアニマルウェルフェア規程では、会員および園館職員は動物の飼育管理にあたり、栄養、環境、健康、行動、精神状態の5つの領域に関して科学的根拠に基づき定期的にアニマルウェルフェアを評価し、定められたアニマルウェルフェア基準に基づいた動物の飼育管理及び施設運営を行わなければならないとしている。

計画期間

再整備計画の対象期間は、計画策定から概ね12年としますが、飼育動物の寿命などを鑑み柔軟に対応する必要があります。

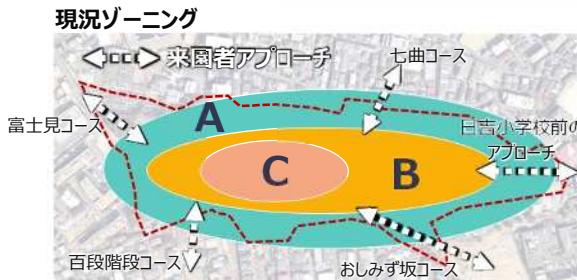
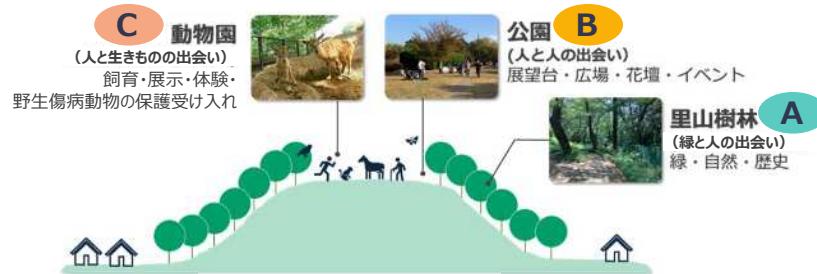
2-1 夢見ヶ崎動物公園の現状

立地特性

標高35mの丘陵地(加瀬山)に立地し、平坦な市街地に浮かび上がる緑の島のような姿で、**公園・動物園・里山樹林の3つのエリアで構成され、多様な特性を有しています。**

自然的特性	<ul style="list-style-type: none"> ・標高35mの丘陵地 ・外周斜面は里山樹林（まとまった緑） ・市内唯一の動物公園 ・鳥獣保護区に指定 ・年間を通じて花や草木、昆虫、野鳥など四季折々の自然を体感
社会的特性	<ul style="list-style-type: none"> ・富士見デッキなどからまちを一望できる(天気が良ければ富士山が見える) ・幸区市民健康の森に指定 ・古墳、国宝「秋草文壺」の出土、太田道灌、戦時の土取り工事、戦没者慰靈塔など歴史的資源が豊富 ・敷地内の社寺などの民有地と共存

■加瀬山の構造



特性と役割

- A** 加瀬山の豊かな樹林地・鳥獣保護区など
- B** 加瀬山上部の平坦なスペース 交流・レクリエーション・散歩など
- C** 動物と出会える 非日常的な空間

現況施設

現在園内には、次のような**公園施設・動物展示施設が配置されています。**

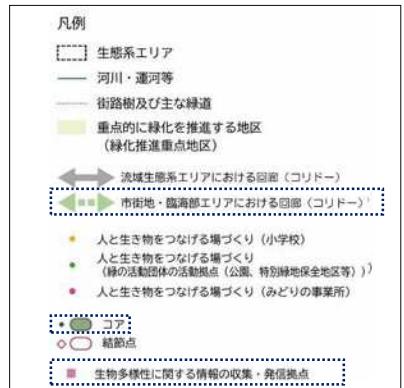


※川崎市ホームページより

生物多様性戦略の中での位置付け

「生物多様性かわさき戦略」では、市街地・臨海部エリアにおける**回廊(コリドー)**における**拠点(コア)**であり、**生物多様性に関する情報の収集・発信拠点**としての役割も担っています。

■生物多様性かわさき戦略



2-2 利用実態

来園者数

ピーク時(昭和63年)は60万人を超えていましたが、近年は10~20万人程度で推移しています。花見など春の行楽シーズン(3~5月)及び秋の行楽シーズン(9~11月)に来園者数が増加する傾向にあります。



利用者のニーズ等

令和6年度に市内で行ったオープンハウス型説明会や、令和7年度から園内で実施しているアンケートでは、以下のような利用者のニーズ・意見が得されました。

オープンハウス型説明会 (R6年度/参加者 = 353名)

対象：会場に立ち寄ってくださった方 (R6年10月～11月)

夢見のパークセンター及び全国都市緑化かわさきフェアのコア会場（3会場）にて、夢見全体や再整備の取組などについて広く意見を収集しました。

得られた主な意見

動物飼育に関する方針があるのか
疑問に思う

対応

コレクションプランの分類の考え方を明確に計画に表記

動物のためになるのなら、お金を取ってもいいと思う

有料化について、使途の明確化を含めて検討することを計画に表記

以前行ったときは駐車場がいっぱいで帰ることになった

駐車場の効率的・効果的な運用について、引き続き関連事業者と対話をを行なながら検討

遊べる場所や遊具が充実しているとよい

ゾーニングにおいて、遊びのエリアを計画に位置づけるよう検討

入園料・収支の状況

園内に社寺などの民有地や5箇所の出入り口があり、動物園エリアを閉鎖して管理することが難しく、入園無料で運営してきた経緯があります。

過去5年間(令和2~6年度)の平均収入額は、一時使用料などにより約14万2千円、平均支出額は人件費、飼料、維持・修繕などにより約1億5千万円で推移しています。

来園者アンケート (R7年度/回答数 = 00※収集中)

夢見の魅力



夢見で充実してほしいコンテンツ



夢見で“いのちを感じる”シーン・場所



設備についてのご要望



2-3 連携協働の取組

これまで、サポーターやボランティアの方々、教育機関など多様な主体と連携した取組を行っており、活動のフィールドとして利用していただいている。

多様な主体との連携協働

① ゆめみらい交流会

様々なスキルを持った各種団体の強みを活かし、**パークセンターでワークショップや研修会を実施**



ゆめみらい交流会の様子



パークセンターでの活動の様子

④ 野生鳥獣リリテー

保護鳥獣の給餌・育雛・リハビリ業務などを行う。スキル向上や意見交換を目的とした**勉強会や研修会を実施**。



保護動物への給餌の様子

② 夢見ヶ崎動物公園

サポーター

動物園まつりなどのイベントスタッフに加え、夢見ヶ崎夢見のイメージアップにつなげるような**広報活動への協力や継続的な寄付への協力**



サポーターと職員による手作り看板



動物園まつりなどのイベント支援

⑤ クラウドファンディング

令和4年に実施し約400人から**約600万円の支援**



医療機器の購入

③ 加瀬山の会

園内の植栽管理、花壇活動などを実施



富士通とのコラボによるアジサイの植樹



季節を伝える演出



小学校、保育園とのコラボによる花壇の花植え

地域との親和性の向上

① 幸区役所との連携

市政だよりやHP・広報などの協力や区役所で実施する**事業への参加や連携**、区役所が保有する**地域資源とのコラボレーション**



市政だより幸区版への掲載

② 日吉出張所との連携

ゆめみZOOテラスの充実や連携施設としてのつながりを表現、**イベントの共催などにぎわいの創出協力**



ゆめみZOOテラスの様子

地域との連携

人の集まる施設での広報

鹿島田跨線橋や鹿島田駅、地域の商業施設など能動的に情報が伝わるエリアで広報



鹿島田跨線橋での広報

市内外の教育機関・高齢者施設などとの連携

① 保育園・幼稚園との連携

遠足としての利用、いのちを学ぶプレ授業としての**出前授業**などを実施



遠足でにぎわう様子

② 小学校との連携

小学校の学びの場として、**遠足前にzoomや出前授業**を実施



授業の資料

③ 高校・専門学校・大学などの連携

高校のインターンシップ受け入れ、専門学校や大学の**飼育実習受け入れ**、大学の研究室と協働により実施する**飼育動物の環境エンリッチメントなどの調査・研究**



東京農業大学との共同研究
猛禽類の飛翔・翼の機能
解明に関する研究

④ 高齢者施設との連携

高齢者施設での**オンライン動物園ガイドや動物紹介動画の貸し出し**



授業の資料

3. 夢見ヶ崎動物公園の課題

※夢見ヶ崎動物公園再整備計画骨子「3.課題」に対応

6

開園から70年以上が経過し、公園施設の老朽化に加え周辺環境の変化や社会変容による市民ニーズの変化、暑熱対策などへの対応が必要となっています。

①社会変容による市民ニーズの変化から見える課題

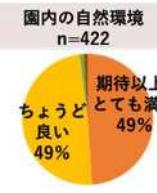
(市民意見・民間事業者意見の調査)

近年では新型コロナウイルス感染症による影響や、オープンスペースの多様な利活用ニーズの高まり、さらにはアニマルウェルフェアに対する意識の高まりなど様々な社会変容が見られました。夢見に対する課題やニーズを把握するため、市民や民間事業者からの意見を収集しました。

来園者アンケート (R5年度/回答数 = 619)

対象：来園者 (R5年11月)

- 10歳未満のこどもを連れた子育て世代の来園者が多い
- 約8割が2時間以内の滞在時間 ⇒ “気軽さ”が魅力
- 園内の自然環境・散歩のしやすさのほか、動物公園全体の満足度が高い
- トイレについて“良くない”が約4割
- 動物園のメジャーな種の他、ウサギなどの人と距離の近い動物、タヌキなどの身近な野生動物が人気で、動物に関連したプログラムへの関心が高い



かわさき市民アンケート

(R4年度/有効回収数=1,556)

対象：市内在住の満18歳以上の個人
(郵送-R4年11月)

- コロナ禍では近隣の動物園よりも夢見に訪れた人が多かった ⇒ “身近さ”が魅力
- 動物の飼育に関心があり、動物の健康・施設の向上を望んでいる
- 賑やかさよりは落ち着いた雰囲気が求められる

民間事業者との対話・意見収集

(H30年度～継続的に実施)

- Park-PFIの導入は難しい（立地や採算面から）
- 不安定な社会情勢による民間事業者の体力不足
- 公益的な役割と収益機能の折り合いが課題
- 駐車台数の増加は可能。インセンティブを見込める良い

②施設の老朽化や不足による課題

多くの施設で老朽化や、多様なニーズへ対応した整備が必要となっています。

- 園内のバリアフリー化（樹木の生長による公園の機能面への影響）
- 動物展示の魅力低下、アニマルウェルフェアに配慮した飼育環境の創出
- 駐輪場や駐車場のあり方の検討の必要性



③サービス面の課題

動物を介した体験プログラム、加瀬山の自然や歴史を体験・体感できるプログラムなど来園者へのサービス面において、夢見の特長を生かし、多様な主体と協働した取組を充実させる必要があります。

- 動物園の4つの役割のうち「教育・環境教育」「レクリエーション」に関する公益的なサービスの充実
- 地域との協働のポテンシャルを生かしたイベントやプログラムの充実
- 加瀬山の様々な文化財の保存、活用と魅力発信事業の充実

④持続可能な管理運営体制の構築に向けた課題

夢見の魅力を維持しながら持続的な管理運営をしていくために、次のような課題へ対応する必要があります。

- ①動物の飼育方針・飼育環境改善
- ②動物園を継続し、種の保存や調査・研究に貢献するための飼育動物種の継続計画（コレクションプラン）の作成、魅力的な展示及び動物の生活環境の改善（環境エンリッチメントなど）
- ③人材育成
- ④持続可能な管理運営体制の構築と新たな財源確保
- ・持続可能な管理運営のための新たな財源の確保、業務の効率化など

4-1 再整備の方向性

夢見の特性や課題・ニーズの把握を踏まえ、3つの視点をもとに再整備の方向性を整理します。

再整備の方向性：老朽化などにより低下した魅力の向上及び社会変容に伴う市民ニーズの変化などに応じた再整備

オープンスペースの利用の多様化、持続可能な管理運営の仕組み、アニマルウェルフェアや環境への配慮などの視点を踏まえた整備を進めます

利用者の利便性やサービス向上のための整備

- ・売店や動物グッズなどの物販機能の検討
- ・動物を身近に感じる体験及び加瀬山の歴史を活かしたプログラムなど特色のある機能や施設の導入検討（サービスや機能向上のため一部有料化の検討）

多様な主体が関わる持続可能な管理運営の仕組みの構築

- ・民間事業者や地域の方との協働の可能性や役割分担などの検討

アニマルウェルフェアに配慮した飼育環境の改善と展示空間の整備

- 動物種の飼育方針の整理
- 適切な面積・設備の検討
- 魅力的な展示

視点①：魅力向上の視点

都市公園機能 まちづくり機能

再整備に向けた検討を進めながら、**魅力向上などの支障となっている一部の施設の整備を行っています**。サービス向上のための施設整備は、市民や来園者、地域で活動をされる方々のニーズを丁寧に把握しながら進めます。

■先行整備の取組

来園者の利便性向上などに資する施設整備として、多目的室や授乳室、多機能トイレなどを備えたパークセンターの新設、東側公園エリアの園路バリアフリー化、動物舎の一部補修とサイン改修などを先行して進めています。



パークセンター
(令和6年度完成)



アンケートでも満足度が低かった
トイレの整備 (完成: 令和6年)



動物舎の柵や看板の整備
(看板は川崎総合科学高校のデザイン)

視点②：地区公園のオープンスペースの視点

平成30年度～令和5年度の来園者数推移



緊急事態宣言

公園の利用効果

休息・休養
子どもの健全な育成
コミュニティ活動など

公園の存在効果

精神的健康
地域ブランドへの貢献
生物の生息環境など



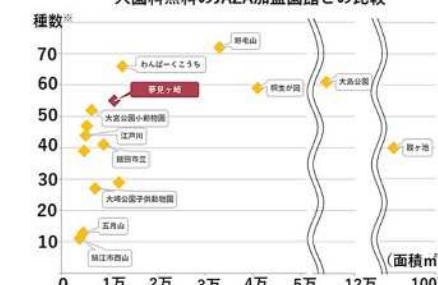
芝生広場 (夢見)

コロナ禍では、ゆとりあるオープンスペースとして公園の価値が見直され、夢見においても来園者数がコロナ禍以前より増加した時期がありました。子どもの遊び、大人の健康増進やリフレッシュといった、**公園にあるべき機能や効果を備え、来園者が快適に利用できる開かれた空間を保ちます**。

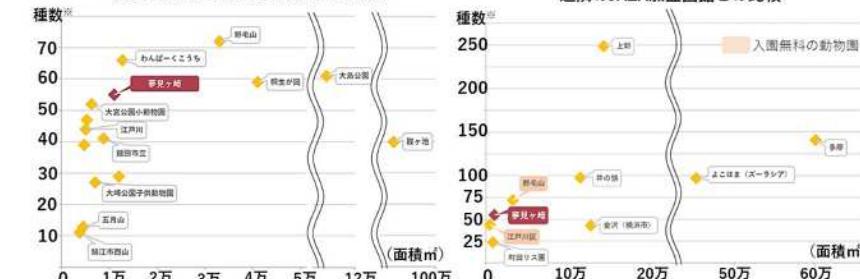
視点③：アニマルウェルフェアの視点

動物園機能

入園料無料のJAZA加盟園館との比較



近隣のJAZA加盟園館との比較



※令和4年度日本動物園水族館年報をもとに、種数は哺乳類・鳥類・爬虫類の合計で作成
※夢見ヶ崎動物公園の動物園部分の敷地面積は11,000m²として計算

夢見は、入園無料の動物園の中では飼育種数が多く、近隣の動物園と比較すると、**規模は小さいですが飼育種数は少なくないことが分かります。アニマルウェルフェアの視点から、それぞの動物種の飼育面積や施設、環境などが適切であるか検討を行います**。

4.再整備の方向性

※夢見ヶ崎動物公園再整備計画骨子「3.課題」「4.再整備の方向性」に対応

8

4-2 課題と再整備の方向性の整理

前頁に示した3つの再整備の方向性をふまえ、**都市公園機能、まちづくり機能、動物園機能の面から整理し、再整備のポイント**について以下に示します。

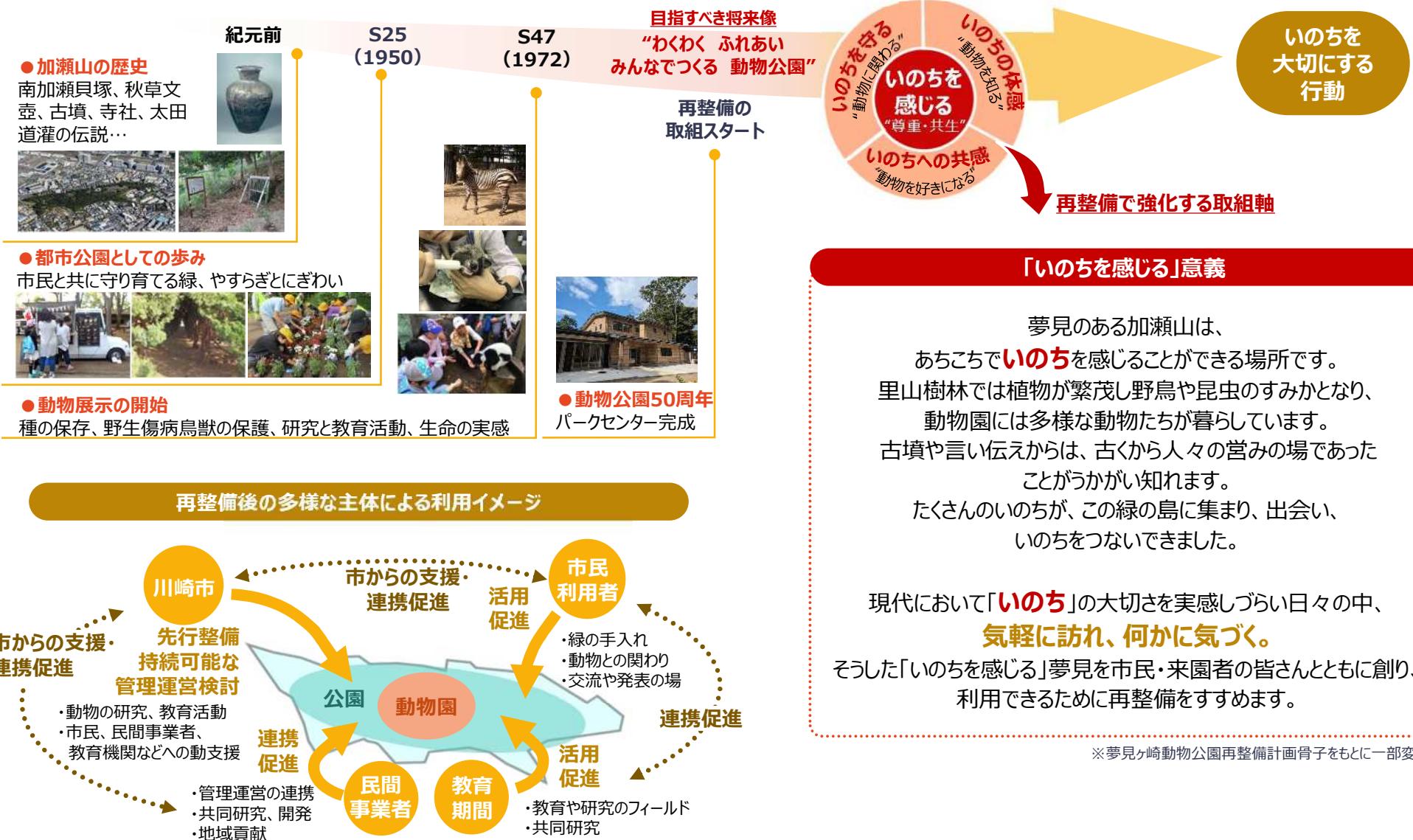
	都市公園機能	まちづくり機能	動物園機能
現況・課題	<p>【施設の老朽化・利用者サービスの向上など】</p> <ul style="list-style-type: none"> 建築物・施設・設備の老朽化、休憩スペースの不足 園内のバリアフリー化、樹木の適正な管理の必要性 駐輪場や駐車場のあり方の検討の必要性 社会変容による市民ニーズの変化への対応 持続可能な管理運営体制の構築と新たな財源確保 アクセスの改善（バス、モビリティなどの検討） <p>【加瀬山の資源活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> 加瀬山の様々な歴史や文化資源を活かした情報発信の充実 	<p>【市民(利用者)サービスの向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 人材育成（ノウハウの継承、高い接遇スキルやレクリエーションの運営力） 地域との協働による樹林地管理の可能性の検討 市民、多様な主体との連携や、活動空間、活動機会の充実 拠点としての情報発信の強化 	<p>【施設の老朽化・利用者サービスの向上など】</p> <ul style="list-style-type: none"> 動物舎・施設・設備の老朽化、休憩スペースの不足 児童の目の高さや、高齢者などバリアフリーに配慮した誰もが見やすい動物展示施設、安心な動線などの検討 「教育・環境教育」「レクリエーション」に関する公益的なサービスの充実 <p>【アニマルウェルフェアなどへの対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 動物展示の魅力低下、アニマルウェルフェア、環境エンリッチメントに配慮した飼育環境の創出 動物の飼育方針、飼育動物種の継続計画（コレクションプラン）策定の必要性 展示動物の盗難や逸走などの防止における安全対策
必要性再整備の	<ul style="list-style-type: none"> 機能更新や長寿命化、来園者の利便性や快適性の向上を図る必要があります。 市街地に浮かぶ緑の島・加瀬山は地域のみどりの拠点として、維持していく必要があります。 社会変容にともなう市民ニーズの多様化に対応する必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民に愛され続けてきた川崎市の貴重な財産として継承・活用が求められます。 年間の支出に対し、財政への負担を軽減する必要があります。 地域の拠点としてまちづくりに貢献していく必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> 飼育動物と職員の安全性を高める施設整備の必要があります。 多様化する動物園に求められる機能・役割に対応する必要があります。 バーチャルの時代、いのちの大切さや他者への思いやりを伝える必要があります。 夢見の「らしさ」「魅力」を強化し来園者やファンを増やす必要があります。
今後担うべき	<p>【公園機能の発揮】</p> <ul style="list-style-type: none"> 緑の拠点、生物多様性 サードプレイス（居場所づくり） 健康づくりの場（心とからだ） 遊び・学びの場（体験・学習） 地域の交流拠点 まちづくりの核 	<p>【市民サービスの向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 緑の拠点 コミュニティ形成や賑わいの創出 人と人との交流の場の提供 地域課題への貢献（課題解決に向けた活動実践の場の提供など） 	<p>【動物園としての機能・役割】</p> <ul style="list-style-type: none"> 種の保存・野生生物保全 教育・環境教育 調査・研究 レクリエーション <p>希少野生動物の飼育・繁殖、傷病鳥獣の保護受け入れなど</p> <p>動物園についての講義、サマースクール、実習受け入れ、情報発信（ゆめみにゅーすなど）</p> <p>大学研究室との共同研究など</p> <p>動物の姿や行動を間近で楽しめる場の提供、動物園まつりなどイベントの実施</p>
ポイント再整備の	<p>都市公園(地区公園)としての機能と魅力の向上</p>	<p>持続可能な管理運営を担保し地域のまちづくりに貢献する、多様な主体との連携体制の構築</p>	<p>動物園機能をより一層活かしたいのちを感じる取組・設備の充実</p>

5. 目指すべき将来像

※夢見ヶ崎動物公園再整備計画骨子「5.再整備のイメージ」に対応

9

夢見ヶ崎動物公園は目指すべき将来像「わくわく ふれあい みんなでつくる動物公園」を踏まえ、**市民と利用者が「いのちを感じる」場となるよう再整備を実施**します。



6. 再整備の基本的な考え方

※夢見ヶ崎動物公園再整備計画骨子「6.再整備の基本的な考え方」に対応

10

上位関連計画におけるこれまでの方針、新たな課題や今日的な役割から導いた**再整備の必要性をふまえ、再整備の基本的な考え方**を以下に示します。



※具体的な仕掛けは次ページ参照

6. 再整備の基本的な考え方

※夢見ヶ崎動物公園再整備計画骨子「5.再整備のイメージ」「6.再整備の基本的な考え方」に対応

11

3つの基本方針に基づく「出会いのしかけ」として、以下に示すような、五感を使った「いのちを感じる」プログラムを展開できる場を整備していきます。

緑と人が出会う

＜出会いのしかけの方向性＞

いのちを育む加瀬山の緑に親しむ

人と人が出会う

いのちを大切にする行動につながる

人と生きものが出会う

いのちの鼓動に心が動く

ふれる



サマースクール
(夢見)



加瀬山の会の活動
(夢見)



えさやり体験
(埼玉県こども動物自然公園)

みる



えさやりで近くでみて驚く
(夢見 動物園まつり)



いのちのかたちに驚く
(夢見 カイヅカイブキ)

きく



動物がエサを食べる音
(夢見マーコールなど)



コンゴウインコのおしゃべり
(那須どうぶつ王国)



野鳥や虫の鳴き声
昆虫教室
(広島緑化センター)

かぐ



緑のにおい・土のにおいをかぐ
(夢見)



WWFジャパン 自然を、
動物をニオイで学ぶ！くんくん
planet in スーラシア

味わう



空気を味わう
(夢見)



キッチンカーで味わう
(夢見)

挑戦する



クイズに挑戦



ツリーアクライミング
(夢見/動物園まつり)

さらに推進するしかけ
(夢見にすでにある資源・
活動など)

新たなしかけ
(民間パートナーとの
連携など)

いのちを
知る
(生きる・死ぬ)



ヤギのライの計画
(夢見)

人と・地域と
交流する
(居場所をみつける)



デジタルワークショップ
での交流 (夢見)

いのちを
表現する



パークセンターでの
工作教室 (夢見)

基本方針 ①

「緑と人が出会う」取組の推進により、**都市公園**としての機能と魅力の向上を実現し、ゆったりと過ごしながら自然環境に親しむ場の提供を目指します。

緑と人が出会う

＜再整備における具体的な取組＞

①市街地に残る貴重な緑、「加瀬山の自然」を**保全・活用**します。

里山樹林、昆虫、野鳥など、**加瀬山の自然を保全するための取組**を進めます。住民参加による樹林管理により、健全な樹林を**守り育てるプログラム**や、環境学習のフィールドとして活用するための**施設整備**（サイン・園路改修など）に取り組みます。



野生生物を紹介する掲示板
(うめきた公園/ 大阪市)

②施設の更新・改修を機に、夢見の「良さ」「強み」を活かした**魅力アップ**を図ります。

老朽化施設の更新・改修によるバリアフリー化、多目的トイレなどの**サービス向上**に加え、夏の暑熱対策として緑陰や休憩スペースの充実を図ります。眺望・景観・樹林など夢見がもつ「良さ」「強み」を活かすための整備を積極的に行なっていきます。



富士見デッキからの眺望
(夢見)

豊かな加瀬山の**緑に集まるいのちを実感**できる取組、**その緑を守り・育てる取組**を進めます。季節ごとのいのちの移り変わり、変化を楽しみながら、地域の自然環境に親しみ、**緑への愛着と関心をはぐくむ場**とします。

③SDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けた取組を**実践**します。

「SDGs未来都市」である川崎市として、本再整備においても、**再生可能エネルギー導入**、**省エネ設備の活用**、**廃棄物削減**、**駐輪場・駐車場のあり方**や**モビリティ**などの導入など、**SDGsの達成に向けた取組**を実践します。



発生材を活用した施設
(生田緑地)

④新たなニーズ・ターゲットを受けて市民の**Well-Being**に貢献します。

社会変容にともなう都市公園の新たなニーズ（健康増進、自然体験、レクリエーションなど）に対応する**プログラムや施設整備**を行います。子どもから高齢者まで、誰もが楽しめるよう、夢見の自然・動物・歴史などの**特性を最大限に活用**します。



慶應大学大学院による**触覚デバイス**を用いたワークショップ
(夢見)

⑤周辺の公園、公共施設などとの連携と役割分担により**拠点機能**を強化します。

地区公園であり、川崎市唯一の動物公園という特性を活かし、**周辺地域の公園、公共施設との連携**を充実させます。緑のネットワークにおける拠点や公園・公共施設利用における**ハブ機能**として、**情報発信**などで連携を強化します。



情報発信の設備の例
(代々木公園/東京都)

基本方針 ②

夢見を100年後も継続するため、「人と人が出会う」取組の推進により、持続可能な管理運営と多様な主体との連携体制を構築し、地域の幸せなまちづくりに貢献します。

人と人が出会う

〈再整備における具体的な取組〉

①川崎市の誇り、市民の貴重な共有財産として次世代へ継承します。

川崎市唯一の動物公園であり、樹林と生きもの、芝生広場、遊具広場、眺望、古墳、社寺に隣接した歴史的景観などを有する本市の貴重な財産として、市民の誰もがその恩恵を共有できる形で次世代に継承していきます。



歴史的景観(古墳)
(夢見)

②子どもからお年寄りまで、市民のサードプレイスとして、居場所づくりに貢献します。

市民のサードプレイス(プライベートな自宅、パブリックな職場に次ぐ第3の場所)として、子どもの遊び・学びの場、社会貢献や地域交流、高齢者の生きがいや健康づくりの場を提供します。必要な拠点整備やサポーターなどとの連携を強化します。



樹林管理ボランティア
(夢見)

古くから夢見に集まるたくさんの人の思いや夢を形にするためのフィールドとしての歴史を感じ、一人一人が自分らしく、「私の居場所」をみつけて行動につなげ、夢見をみんなで未来へつなぐ、土台づくりをすすめます。

③「憩い」と「にぎわい」の両立てで、自然と人が集まつくる公園を目指します。

夢見の自然的特性や社会的特性など多様な機能を活かし、静的な利用と動的な利用を考慮した施設整備を行います。市民の多様なニーズに応えるとともに、シェアサイクルの導入などによるアクセス向上を図り、来園者の増加につなげます。



休憩施設
(岐阜公園/岐阜市)

④収益事業や多様な主体との協働により、持続可能な管理運営を実現します。

プログラム実施などにともなう一部有料化、来園者向けの収益事業の実施、市民やサポーターによる支援、専門知識・技術を有する民間事業者との連携(企業協賛・ネーミングライツ・物販・出店など)を通じて、持続可能な管理運営を実現します。



企業協賛や応援の仕組みづくり
(天王寺動物園)

⑤地域交流拠点として、「パークセンター」をまちづくりの取組に活用します。

先行整備されたパークセンターを、地域の交流拠点や情報発信拠点として活用します。地域コミュニティによる利用促進や周辺施設との連携、新たな機能の導入などにより、地域交流・地域活性の拠点として活用の幅を広げます。



新たに整備されたパークセンター
(夢見)

基本方針 ③

動物園機能の向上により、「人と生きものが出会う」取組を推進します。夢見全体の「いのちを感じる」場としての充実をリードし、多様な主体の活躍を目指します。

人と生きものが出会う

〈再整備における具体的な取組〉

①「いのちを感じる」をテーマに、動物展示や情報発信を充実します。

動物を知り、動物を好きになる機会、動物との関わりについて考える機会を提供することで、動物やその生息環境・人のいのちや自分のいのちも大切に思う心を育みます。いのちを感じる取組として、**動物展示や掲示版などの充実**を図ります。



いのちを伝えるサインの工夫
(天王寺動物園/大阪市)

②夢見に暮らす生きものたちの、**アニマルウェルフェア**を遵守します。

老朽化した飼育施設を、**アニマルウェルフェアの観点から整備**し、動物と職員の安全を確保します。盗難や逸走の防止にも配慮しつつ、**野生鳥獣の保護**や加瀬山の樹林に**生息する動植物の周知**を図り、地域の生物多様性にも貢献します。



傷病野生動物の保護活動
(夢見)

生まれて、成長して、老いて、次の世代へ。「かわいい」「かっこいい」だけではない、いのちのつながりや生き様を感じる。人も生きものも、それぞれの工夫でそれぞれのいのちを輝かせる。そういう**いのちの不思議や多様性を、ゆったりと気軽に実感**できる、心が動く展示やプログラムを展開します。

③好奇心をくすぐる展示と居心地の良い空間づくりで、**来園者の増加**を目指します。

アニマルウェルフェア、環境エンリッチメントに配慮した**動物展示の工夫**で、**来園者の五感を刺激**し興味を呼び起します。座ってゆっくり動物を眺めたり、子どもがすぐに手洗いができるなど、**居心地良く利便性のある空間づくり**により来園者増加を目指します。



チュウサギの「待ち伏せ」という採食行動を引き出す水流給餌水槽
(飯田市立動物園/飯田市)

④動物を触るだけではない、**脳と心が喜ぶ「ふれあい」**を提供します。

SNSによる情報発信の充実、環境エンリッチメントの向上を考える体験学習、動物飼育を支援する仕組みなどを通じて、**従来の触れるだけの「ふれあい」ではない、動物の生態を深く知る、多様な「ふれあい」**体験やプログラムを提供します。



手作りの動物の遊び場
(天王寺動物園/大阪市)

⑤一人一人の職員、夢見を支える一人一人が、夢見の「らしさ」と**「魅力」**の源です。

バックヤードの整備や暑熱対策など、**働く環境の充実**により、職員がもつ専門的な知識や技術、熱い思いやアイディアを活かして**やりがいをもつて働く環境**を目指します。また、夢見を支える**方々の活動拠点の充実**を図ります。



キーパーズトーク
(夢見)

8-1 ゾーニング及び主要な導入施設の概要

平坦な市街地に浮かび上がる緑の島「加瀬山」の構造、自然的・社会的特性を活かし、にぎわいとやすらぎが共存するゾーニングを設定します。



※夢見ヶ崎動物公園再整備計画骨子「6.再整備の基本的な考え方」に対応

8-2 動線

ジョギングなどの通過、散策と“たまり場”的バランスに配慮した園路とします。また、安全に楽しみながら歩けるよう舗装などの整備を行います。

富士見コース

- 加瀬山の自然と歴史を伝え、動物園への誘いのサインなどの整備をする。
- 歩きながらペンギン、シマウマなど動物の歩幅を体感したり、あと何mで公園！など楽しく歩きたくなれる仕掛けを行う。



動物の足跡の舗装
(天王寺動物園)

百段階段コース

- 階段の昇り降りで、心身の健康に貢献する動線とする。
- 基本的に現状維持とする。

散策路

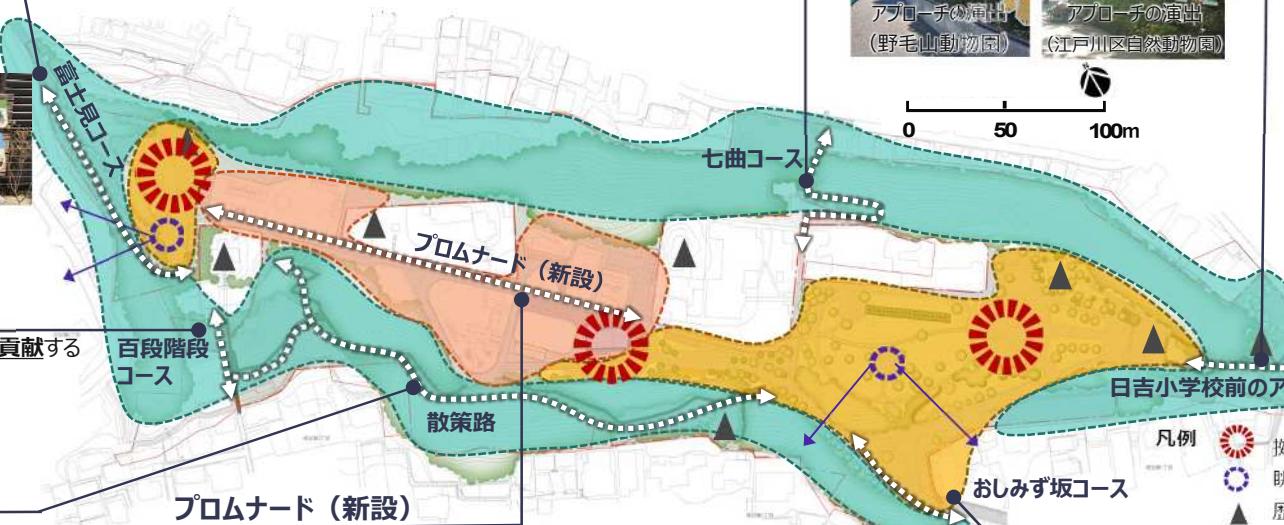
- 「寄り道」気分の自然散策路。
- 加瀬山の会と協働で安全な散策路を維持。
- 野鳥や昆虫の観察会、鳴き声を聞くなどのプログラムを実施。



緑豊かな散策路（夢見）

七曲コース

- 既存階段は踏面の安全性（勾配の改善、滑りにくさなど）を考慮し利便性の高い階段として改修を行う。
- 階段脇にアプローチとして、展示動物の彫刻や間伐材などの発生材を利用した展示動物を模したアート作品などを設置するなど動園公園へ向かうワクワク感を醸成できるような空間づくりを行う。



プロムナード（新設）

- 高木の列植など動物園エリアだけでなく慰靈塔から西側の展望広場へつながる夢見のシンボルプロムナードとしての整備。
- 動物園エリアの骨格となるメイン動線となるため、幅員4~6mを確保した園路とする。



シンボルプロムナード公園
主園路（東京都） 横浜市グランモール公園
(横浜市)

日吉小学校前のアプローチ

- 周辺樹林地の適正な管理を市民協働で進めていく場とする。
- 加瀬山の歴史や自然への思いを巡らせる空間づくりを行う。
- 動線沿いに、加瀬山の歴史や夢見でみられる動植物・昆虫などの彫刻などを適宜配置する。



発生材を利用した解説版
(東山動植物園)



山猫の檻を覗く山猫の彫刻
(東山動植物園)

おしみず坂コース

- 自動車の唯一のアプローチ。自動車からでも動物公園にきたことが一目でわかるようなオブジェなどを設置する。



エントランスの演出
(メーカー協賛より)

防災・非常時

- 災害時における緊急車両などの進入路の確保や避難経路などに配慮した舗装、サイン整備

8-3 植栽について

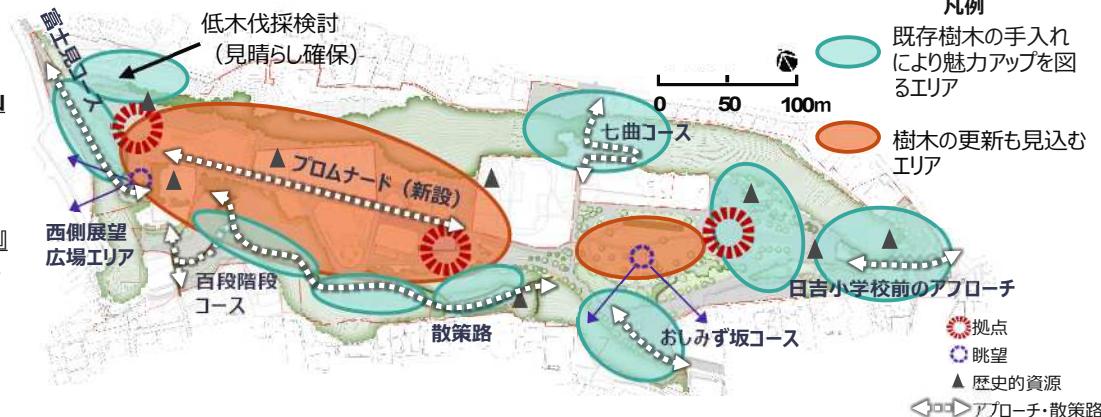
加瀬山の自然を活かし、夢見に適した樹林地や植栽の整備を行います。

公園全体の考え方

- 既存の高木の緑陰を活かし、安全性を考慮した見通しの確保、景観の充実による魅力向上などのため、高木の剪定などを行います。
- ただし根上がりが著しく、利用にあたって危険や支障が伴う樹木や、再整備に向けて施設などの支障となる樹木は、公園利用にあたって適切な位置に更新します。
- 管理や整備による発生材は、コンポストや工作の素材として再利用の検討をします。

西側の展望広場エリア

- 剪定により眺望、富士山への見晴らしを活かす。
- 根上がりなどで利用に危険が伴う樹木は更新（新植）を行う。
- 新植する樹木は『サクラ』を中心とし、印象深い空間づくりを行う。
- 低木は伐採とする。



日吉小学校前のアプローチ周辺

既存樹林の剪定・伐採、下草刈りなどを実施。市民と協働で樹林管理が行える範囲や樹種、スケジュールなどを検討する。

広場、散策路など

適切な樹林の明るさ確保や緑陰効果の向上、見通しの確保などのため剪定をする。

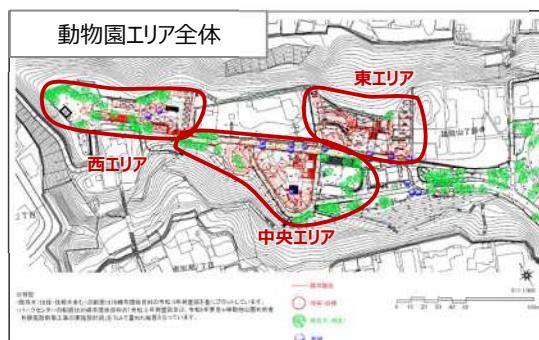
おしみず坂などアプローチ

樹林の剪定、間伐などを行い、見通しをすっきりさせる（明るいイメージにする）。

プロムナード（新設）

高木の列植などで全体の骨格となる印象づけをする。

樹木を更新するエリアの考え方

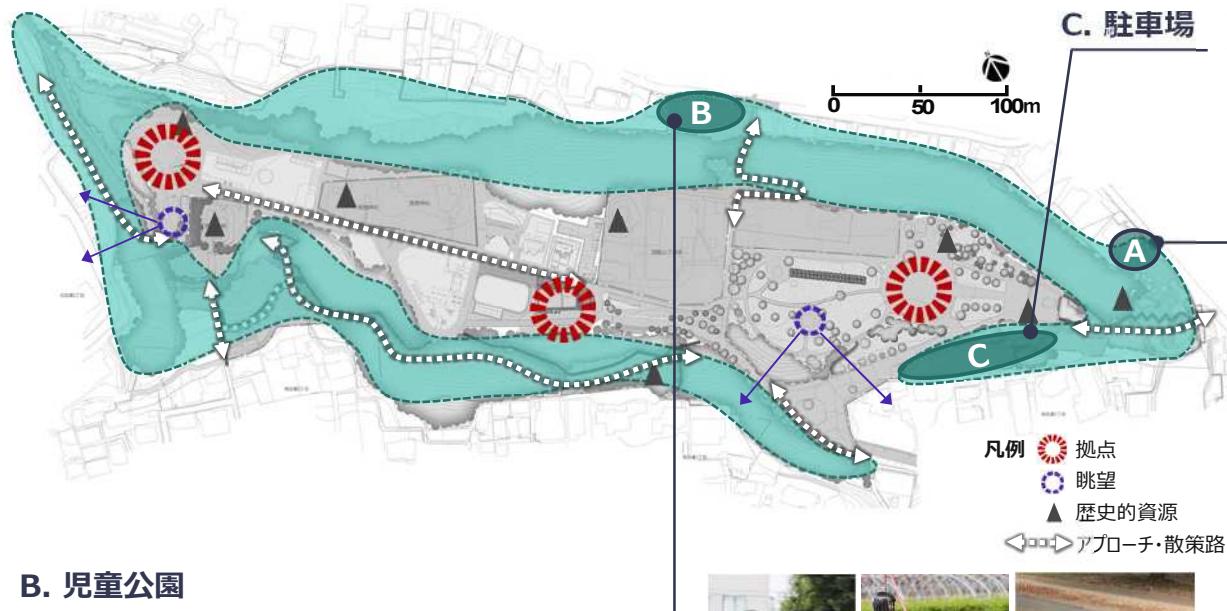


- 利用者への安全性確保（根上りや落枝、倒木の危険性などを考慮）
- 電気や給排水設備、トイレや動物舎などの基幹設備の更新のため

- 更新木
- 本（調整中）
- 新植
- 本（調整中）



9-1 緑と人の出会いゾーン



B. 児童公園

いつも のびのび ちいきの公園

ふれる みる

- 川崎市福祉のまちづくり条例に適合した入口の改修を行う。
- 周辺公園を加味し、特徴ある公園づくりを目指す。
- 敷地面積が限られている（約700m²）ことから小学校低学年以下など、対象年齢を絞った公園づくりを目指す。
- 遊具やベンチなどの施設は、夢見でみられる生きものや「白山古墳」からの出土品を連想できるデザインとし、動物公園全体や地域の歴史への理解や愛着の醸成へつながる公園づくりを目指す。
- 法面の安全対策を行いつつ、法面中腹に隣接する墓地へ十分配慮した上で法面利用の有無を検討する。



・現状面積を維持。

- 民間パートナーに管理運営を委託する際、駐車場区画の見直しを実施する。事前予約のシステムや、ゲートなどを使用しないカメラによる入出庫管理も想定する。また、近隣の日吉合同庁舎の臨時駐車場との連携も図り、来園者の利便性を向上する。

A. (仮称)「いのち」を「みつけ」「まもり」「育てる」拠点

きく かぐ みる ふれる

- 日常利用として散歩・散策の際の休憩など、地域の憩いの場として静的な空間づくりを目指す
- 周辺樹林地を市民協働（地域住民・こども・大学など）により管理する際の集合場所として整備し、樹林管理のプログラムを考え、実施するための「拠点」とする。
- 里山の手入れを通じて、自然の芽吹きやいのちの循環を感じ、生きものとの出会いから気づきを得る場とする。
- 手入れへの参加により、近隣の方々との会話やふれあいが生まれ、地域のつながりを深めるきっかけとする。
- 10人程度が活動できる四阿・テーブル・ベンチに加え、手洗い施設や必要に応じて倉庫、資材置き場や落ち葉のコンポストなどを設置。

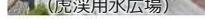


9-2 人と人の出会いゾーン (D,E,F)

F. 展望広場

みる かぐ ふれる

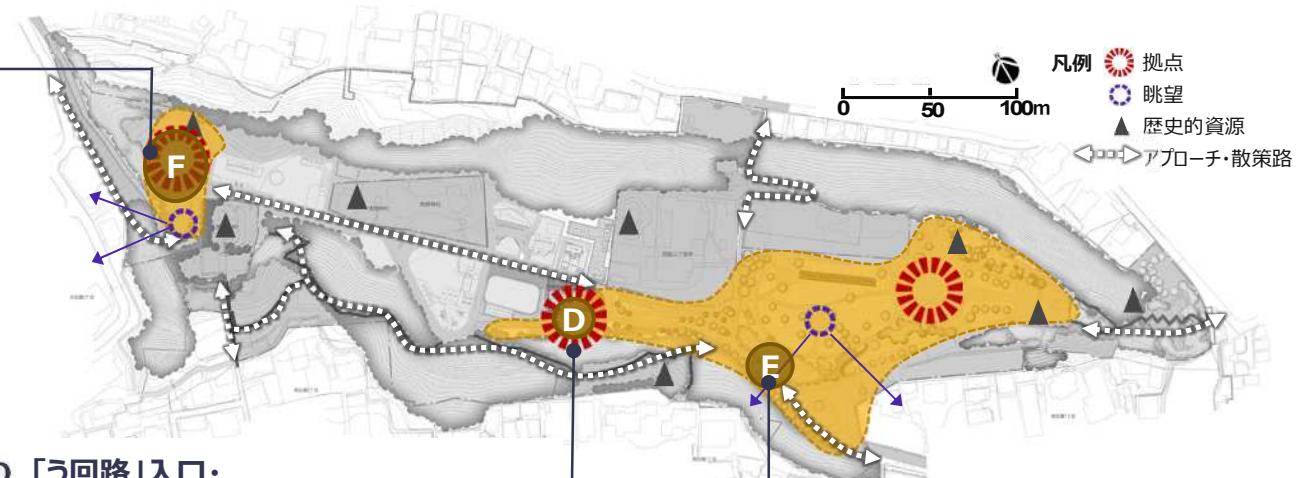
- 市街地への眺望、富士山への見晴らしや既存のサクラを活かしたのびのびとした広場空間として整備する。
- 展望デッキ、日除けなど休憩施設を更新しつつ、ベンチやテーブルを新設する。
- また、複合遊具は撤去し芝生エリアに新設し、広場主体の空間づくりを行う。施設デザインは、動物園エリアの動物を連想させるデザインとする。
- 公園へのアプローチ動線と動物園エリアの骨格となるシンボル動線の「結節点」となるため、花見ができるサクラを主体とした空間づくりを行う。
- 「結節点」にシンボル機能を持った施設を設置する。(シンボリックの高いデザインのトイレや時計塔、ゲートなど)



太塚駅北口トイレ

武蔵境駅南口トイレ

サインの例 (ちあきな公園)



D. 「う回路」入口・パークセンター南側

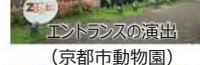
かぐ ふれる

- 花木・草花や舗装パターンなどで演出し、パークセンターとの一体感を演出する。
- 加瀬山の会の活動拠点としてのスペースを確保しつつ、神社への車両動線にも配慮。公園利用者にとっては、休憩や小規模なイベント利用ができる広場空間とする。

※小規模なイベント：

間伐材を利用した小物や動物用遊具製作などの工作イベントやアート展示イベントなど。

- 動物病院改修の際の「仮設病院機能」を活用し、管理活動の暑熱対策として休憩小屋などの設置も検討する。



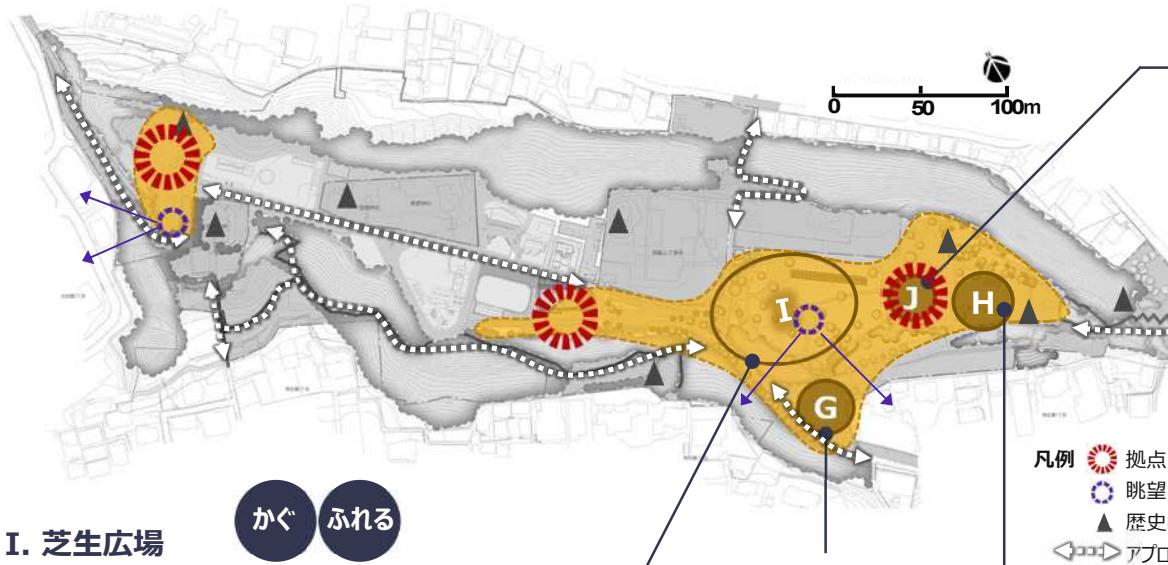
みる

E. 駐車場からの入り口

- 自動車利用者のメインエントランスとしてのゲート機能を持たせる。
- ゲートやシンボルツリー、草花で出迎えの空間を演出。
- 旧売店エリアは、情報発信エリアとして改修し、公園全体マップに加え、展示動物や加瀬山の歴史、「夢見ヶ崎」の名称の由来などを紹介する。
- 動物園やイベントの最新情報を伝えるデジタルサイネージを設置を検討する。



9-2 人と人の出会いゾーン (G,H,I,J)



I. 芝生広場

かぐ
ふれる

- ラジオ体操、犬の散歩、ボール遊び、凧揚げ、お花見、地域の行事（こいのぼり）など、柔軟な活用ができる広場。
- 展望台の撤去を検討。
- 動物や加瀬山にちなんだテーマ性のある複合遊具などを中心とした遊びの空間を整備する。遊びの空間は、児童（6歳～12歳）と未就学児（6歳未満）でみわけができる空間づくりを行う。
- 芝生広場に設置する休憩施設はテーマ性のあるデザインのベンチ・スツールなど（動物や昆虫の姿・形を模した形状や動物の背中のイメージなど）。
- 緑（カイヅカイブキ）のトンネルは維持



G. エントランスのロータリー

- 現状維持。
- タクシーの転回や、駐車場が満車であった場合の転回スペースが必要。
- 駐車場の満車・空車のわかる看板などの設置も含めて、民間パートナーとの協議によりロータリー空間の見直しを行う。



石張り舗装のイメージ

H. 慰靈塔付近

ふれる
きく

- 戦没者慰靈のための広場空間として現状を維持。
- 舗装などの老朽化がみられるため、舗装の更新（石張り舗装など）や樹木の剪定、不要施設の撤去などを行い、慰靈のための空間としてふさわしい格式高い空間づくりを行う。



石張り舗装のイメージ



慰靈塔前のスペース（夢見）

みる
味わう

- 遮熱透水性ILBなどによる円形広場に改修する。円形広場は象徴的なデザインとなるような工夫を行う。また、舗装構成は、キッチンカーなど車両乗り入れが可能な舗装構成とする。

※例：古墳群から出土した銅鏡模様を舗装パターンとするなど

- 舗装広場外周部には、既存木を利用した木陰ができる位置にベンチを適宜配置※する。

- 広場内は、お祭りが可能なオープンスペースを確保しつつ、適宜樹木とベンチを配置し、休息できる設えとし、広場全体が慰靈塔に向かう静的空間となるような整備を目指す。

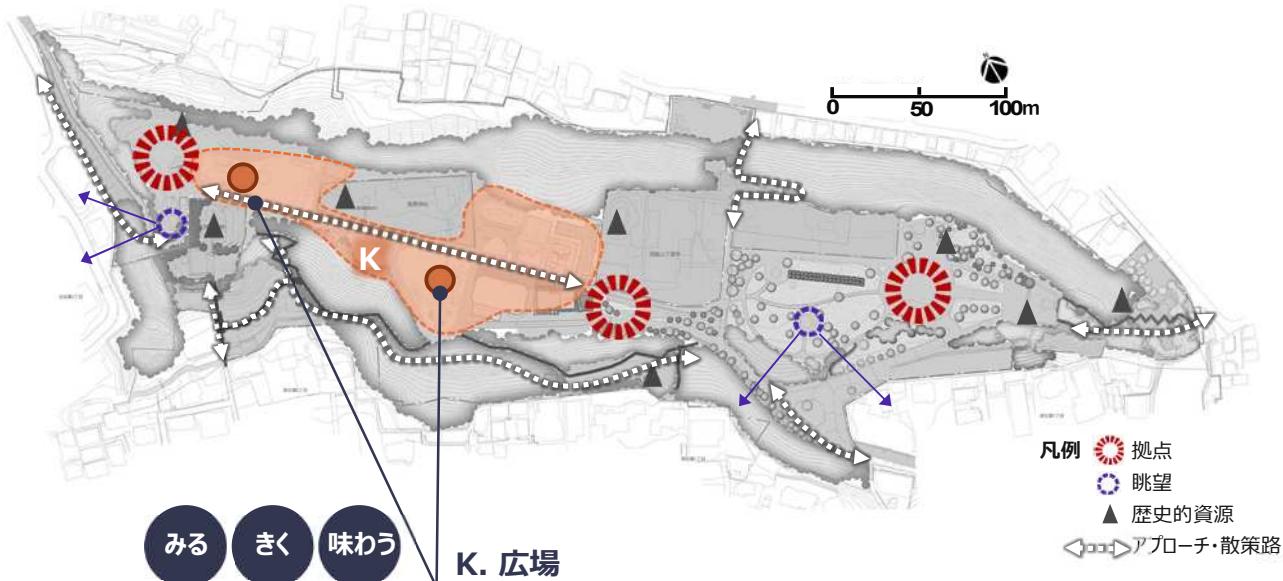
※広い舗装面となるため、樹木を舗装内にも配置し木陰を作る。



古墳群から出土した
三角縁神獣鏡
(川崎市)



9-3 人と生きものの出会いゾーン



- 動物園エリア内に遠足などの利用時の説明、お弁当、休憩などのためのスペースを整備
- 日常的には子ども（小中高生）や若者（高校生や大学生など）の居場所。動物たちを見ながら、また人々の往来を感じたり、様々なことに思いを馳せながらゆったりと時を過ごせる場所とする。
- 屋根のある休憩施設などを設置し、雨天時でも休憩でき、昼食などが食べられるようにする。
- 動物の形状を模したベンチやスツールなどを設置、動物園エリアの各ゾーンの特徴を表した設えとする。
- 手洗い場を設置し、利用者の衛生面にも配慮した空間づくりを行う。



動物展示・動物病院など

※詳細はP.24を参照

ふれる みる かぐ きく

- 老朽化やアニマルウェルフェアに対応するための動物舎整備をする。さらには動物の本来の行動を引き出す環境エンリッチメントの充実、子どもの目線やバリアフリーに配慮した展示など観覧環境の充実を目指す。
- より一層動物園としての役割を果たすための、来園者と職員の安全確保を考慮した、園路など動線、施設の整備を行う。
- 園内各所には飼育動物や加瀬山の野生動物、昆虫を模したベンチ、モニュメント、彫像などを計画し、見つける・出会う楽しみを演出する。



9-3 人と生きものの出会いゾーン

飼育動物の考え方

動物を飼育・保護するという役割を担う動物公園が、次の100年も継続していくためには、一般的な公園とは異なる視点から施設・環境の整備を進めていく必要があります。具体的には、飼育動物の種の保存や寿命などを考慮した繁殖・調整・導入の計画的な実施に加え、アニマルウェルフェア（栄養、環境、行動、健康、精神）および環境エンリッチメントの観点から、動物の生態や習性に配慮した施設整備を進めていく必要があります。

また、来園者が動物を「知り、関わり、好きになる」体験を通して、子どもの健やかな成長や、来園者の心身のリフレッシュにつながる取組を充実させるための施設・環境整備も合わせて進めていきます。

今後飼育していく種の計画作成

支える

計画の視点

- ▶種の保存への貢献の視点
- ▶環境教育、情操教育などの教育的視点
- ▶飼育継続性の視点
- ▶動物公園での実績の視点
- ▶動物を介在した取組への発展

今後飼育していく種のニーズを満たすことのできる施設整備

■コレクションプランと施設整備の考え方の例

- ・ 動物を好きになってもらうプログラムが実施できる動物種・施設整備の検討
- ・ いのちを守る取組を伝え、市民の参加を促進する施設整備（動物保護施設の充実など）



コレクションプランの考え方

飼育している一部の動物種において高齢化や近親交配が進み、今後の繁殖が困難と考えられる動物種も存在します。持続可能かつアニマルウェルフェアに配慮した飼育体制を確保し、今後も動物園としての役割を果たすために、飼育動物種の継続計画「コレクションプラン」を策定します。

コレクションプランは、教育的価値など動物公園の将来像を踏まえた視点、動物の特性や他の動物園の動向などを踏まえた専門的な視点、人気の動物種など客観的な視点から総合的に判断します。また、飼育動物種数・個体数の動態を踏まえ、必要に応じて適宜見直しします。

多様性の発揮・
教育的価値など

将来像を踏まえた視点

3つの視点のバランスを重視した
コレクションプラン

専門的視点

動物特性と他園館の動向、有識者の意見など
(動物種の生態、希少性、繁殖可能性、
JAZAコレクションプランへの準拠など)

レッサーパンダ・ペンギンなどの人気の種や
体験プログラムの市民ニーズに対応できる種、
文献などによる動物の生態調査

客観的視点

※夢見ヶ崎動物公園再整備計画骨子に一部加筆

- ・ SNSを活用したプロモーションによる愛着や物語性が来園の動機づけとなるような動物種と効果的な見せ方のための施設整備や展示の工夫



9-3 人と生きものの出会いゾーン

コレクションプラン

飼育環境の充実や、五感を活用した体験プログラムなどを可能とするために、現在の飼育動物の繁殖・調整を進め、将来的に計35種程度を継続して飼育する方針とします。また、動物園としての魅力向上や来園者ニーズへの対応、JAZAコレクションプラン掲載種など、国内の園館で種の保存や飼育展示が求められる種については、今後も新たな種の導入を継続的に検討してきます。

飼育を継続する種 II 35種	考え方	動物園としての役割・取組内容など	動物種の一例
	<ul style="list-style-type: none"> 種の保存への貢献その他これまでの実績などを勘案し、積極的に個体の導入・繁殖に取り組み飼育を継続する クロシロエリマキキツネザル、パラワンコクジャク… 	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="flex: 1;"> <div style="background-color: #f08080; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center;">種の保存・野生生物保全 調査・研究</div> <div style="background-color: #f08080; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center;">教育・環境教育 レクリエーション</div> <div style="background-color: #f08080; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center;">情操教育、 環境教育など</div> </div> <div style="flex: 2;"> <p>・絶滅危惧種など、開発や環境破壊により生息地が減少している動物の生息域外保全として種の保存・生物多様性の実現に貢献する</p> <div style="background-color: #00a0a0; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center;">生物多様性かわさき戦略などへの貢献</div> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 絶滅危惧種など クロシロエリマキ キツネザル CR JSMP
新規に導入する種	<ul style="list-style-type: none"> 状況に応じて個体の導入・繁殖を検討しながら飼育を継続する ホウシャガメ、マーコール、ルリコンゴウインコ… 	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="flex: 1;"> <div style="background-color: #f08080; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center;">教育・環境教育 レクリエーション</div> <div style="background-color: #f08080; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center;">情操教育、 環境教育など</div> </div> <div style="flex: 2;"> <p>・五感を使って動物とふれあうことで、生命を尊び、社会性を学び、環境の保全に寄与する態度を養う「情操教育」の効果が期待できる</p> <p>・家畜などは古くから人との関わりが強く人を恐れにくいため、より近くで観察、学習する</p> <div style="background-color: #00a0a0; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center;">川崎市環境教育・ 学習アクションプログラムなどへの貢献</div> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 飼育動物展示の視点 フンボルトペンギン ペアでの子育て・群れでの行動等教育効果 VU JSMP
現飼育個体をもって 飼育を終了する種	<ul style="list-style-type: none"> 魅力増進や来園者ニーズに対応できる種（家畜種など） 		<ul style="list-style-type: none"> ヤギ 人との距離の近さ、動物との関わり方の学習への効果等
	<ul style="list-style-type: none"> 繁殖や新規導入が困難な種・または他の希少種などとの飼育スペースなどの調整のため繁殖を行わない シロビタイムジオウム、クモザル… 	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="flex: 1;"> <div style="background-color: #f08080; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center;">種の保存や個体の状況などを勘案し、一部の種については他の種の飼育スペース確保のため繁殖させず終生飼養する</div> <div style="background-color: #f08080; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center;">園内で繁殖ができず、国内の他園館からの導入も困難な種（血統が近い個体しかいない・個体数が少ないなど）は現個体の終生飼養後に飼育を終了する</div> <div style="background-color: #f08080; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center;">アニマルウェルフェアに配慮した、健全な飼育・展示環境の維持向上に努める</div> <div style="background-color: #f08080; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center;">外来種、特定外来生物は繁殖を想定しない</div> </div> <div style="flex: 2;"> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ホンドタヌキ 日本の里山管理への意識、野生動物との関わり方の学習への効果等
	<ul style="list-style-type: none"> 野生保護種などであり、飼育種としての定着を想定しない カミツキガメ、ミシシッピアカミミガメ、ハクビシン 	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="flex: 1;"> <div style="background-color: #f08080; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center;">シロビタイムジオウム 個体の性格や他のインコ科の希少種の福祉向上のため継続しない</div> <div style="background-color: #f08080; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center;">ハートマンヤマシマウマ 国内飼育頭数が少なく、繁殖ができても血統の近い繁殖子となる</div> </div> <div style="flex: 2;"> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> シロビタイムジオウム 個体の性格や他のインコ科の希少種の福祉向上のため継続しない NT JSB ハートマンヤマシマウマ 国内飼育頭数が少なく、繁殖ができても血統の近い繁殖子となる VU 維持

■再整備計画骨子からの更新について

- 野生保護種であるホンドタヌキ、オオタカなどの一部を、「対象外」から「推進種」「維持種」に変更しました。夢見の「いのちをまもる」取組の一つに、野生傷病鳥獣の保護活動があります。**地域に住む野生動物を知り、人と野生動物との関り方を改めて来園者に考えていただくために、飼育の継続が必要であると判断しました。**

※コレクションプランは、社会情勢や飼育個体の保全状況などを踏まえ必要に応じて柔軟に見直します。

参考①：国際自然保護連盟（IUCN）による
動物種のレッドリスト分類（絶滅の危険性）
高 ← CR EN VU NT LC 低
深刻な危機 危機 危急 危機 危急 危機

参考②：JAZAのコレクションプランで指定されている種（2024年1月5日時点）
JSMP JSB 維持
管理種 登録種 維持種

- 左記の考え方にもない、「対象外」の考え方を「野生保護種など」であり～とし、対象外に分類する動物種は、特定外来生物や外来種とします。

9-3 人と生きものの出会いゾーン

展示施設の整備方針

動物舎

動物の飼育環境の改善、展示機能の充実、来園者と職員の安全確保などを考慮し、より一層動物園としての役割を果たすための施設整備を行います。

- ・アニマルウェルフェアや環境エンリッチメントを考慮した施設や、職員・動物の安全を考慮した施設
- ・動物の逸走防止を考慮した構造（二重扉など）
- ・来園者が安心して観覧できる動線整備や広場などの設置
- ・夏の暑熱対策を考慮した飼育環境、観覧環境
- ・子どもの目線や車いすなどバリアフリーに配慮した、誰もが見やすい展示施設
- ・（今後の課題として）動物の間接飼育を可能とする設備構造

■配慮事項について

- ・JAZAの適正施設ガイドラインがとりまとめられている動物種については、これを参考にしながら飼育環境、飼育面積などを設定し整備します。
- ・コレクションプランに基づき、園内の繁殖を目指す動物種はそのための繁殖に必要な面積、部屋数などを確保します。また、感染症や、傷病動物・高齢動物などの隔離スペースの充実も併せて検討します。
- ・工事に伴う騒音や移動が飼育動物に極力影響を及ぼさないような整備方法及び種や個体の状況に応じた施設配置を検討します。
- ・動物の移動には細心の注意を払い、生態や習性に配慮した移動方法や移動距離を考慮した施設配置計画を立てます。

■JAZA適正施設ガイドラインの一例

動物種	JAZAガイドライン記載の基準	
	飼育面積の基準など	その他
クロシロエリマキキツネザル (2頭想定の場合)	屋内・屋外とも 3m×3m=9m ²	屋外 高さ5mなど
フンボルトペンギン	屋外：6羽までは1羽あたり1.2m ² プール：6羽までは1羽あたり1.0m ² 、水深 0.5m	擬岩や木製の巣箱など

バックヤード・病院・保護施設

動物の安全はもとより、職員の働きやすさや安全を考慮した整備を行います。

- ・安全で効率的な管理動線の整備
- ・傷病動物や感染症への対応を適切に行うための動物隔離施設や保護施設の充実
- ・野生傷病鳥獣の受け入れや野生動物リハビリテーターの活動が充実し、来園者が一部観察可能なバックヤード整備
- ・大学など学術機関との連携をより一層深化するためのバックヤード整備

防犯・防災・感染症対策などの危機管理に関する施設

展示動物の防犯対策、動物の健康危機管理、地震など自然災害にに対する防災対策のために必要な施設（ハード）を整備します。
また、それらの運用（ソフト）についても検討します。

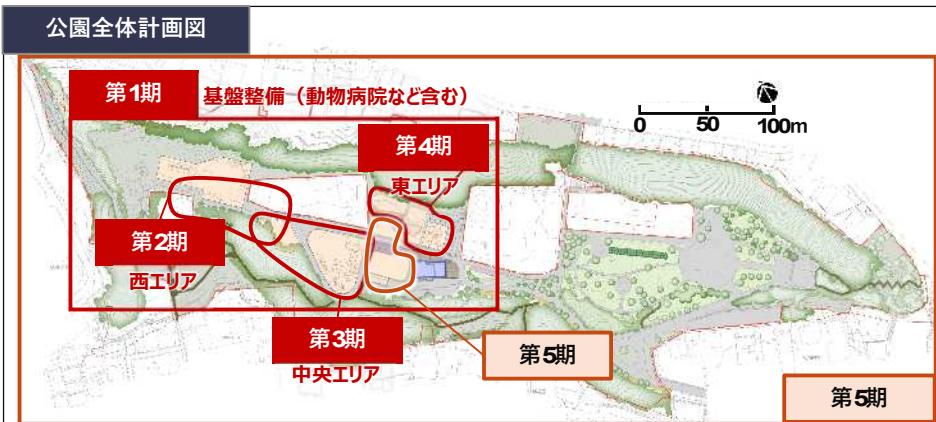
項目	ハード	ソフト
防犯対策	・防犯カメラの設置 ・ゲートの新設 ・配置により死角を作らないような工夫など	・対策の強化 ・市民や民間事業者との連携など
動物の健康・危機管理	・鳥インフルエンザなど感染症対策を考慮した施設 ・隔離施設の充実 ・配置による工夫など	・マニュアルの整備など
防災対策	・インフラのバックアップ（水・電気・太陽光発電や蓄電）、ガスなどは14日間の予備を設ける ・飼料や備品の備蓄が可能な施設整備 ・耐震設計とし、災害時に来園者・職員・動物の受傷、動物の逸走を防止する構造	・公園部分含む避難訓練の実施、地域との連携強化 ・マニュアルの整備 ・飼料や備品の備蓄量の検討など

10-1 段階的整備の方針と手順

日常的な利用や動線としての利用、また、敷地内にある寺社利用者への配慮のため、**段階的な整備をし、全体を閉鎖する期間がない**ようにします。来園者と職員、ボランティアの方などの安全確保・飼育動物や周辺の自然環境及び近隣への配慮・業務への支障を最小限に抑えることなどを考慮した段階的整備とします。

段階的整備の方針

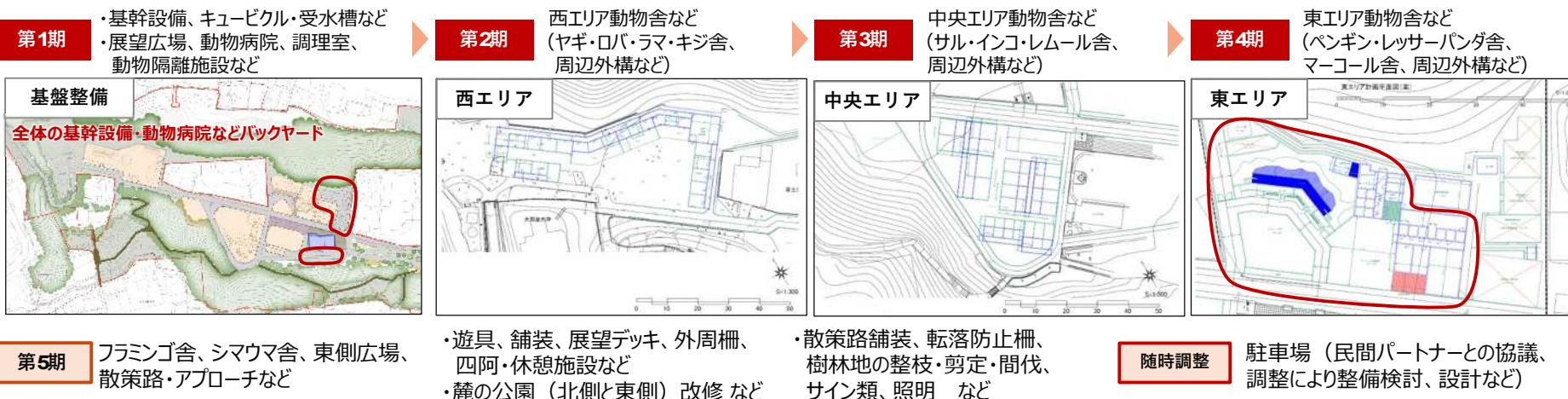
※段階的整備の順序は飼育個体の状況などにより変更が生じる場合があります。



- 公園としての利用、寺社関係者と利用者を考慮し、さらには動物の移動などの条件などから、**公園を全面的に閉鎖しての整備は行わない**。
- 電気や給排水などの基幹設備は、段階的に行われる動物舎などの整備段階を考慮し、**設備の接続が手戻りなく行えるように計画**する。
- 整備中の動線は仮囲いや誘導員の配置などで**来園者と職員の安全を確保**する。工事の状況にあわせて、**工事車両動線、主園路、管理用動線**の使い分けを検討する。
- **動物病院や調理室などの管理施設は業務への支障を最小限に抑える**ような整備工程とする。

鳥瞰図などのイメージ
(公表時)

段階的整備の手順



10. 段階的整備及び概算事業費

※新規

26

10-2 概算事業費と整備概要

計画概成期間にかかる事業費（予定）は、概ね次のとおりです。※物価水準の変動などにより変更が生じる場合があります。

再整備における公園全体の概算工事費



■全体概算事業費

項目	適用	金額（千円）
a.埋蔵文化財調査費		
b.設計費		
c.建築工事監理費		
d.工事費	事業費に関して 調整中	
整備費合計		
消費税		
	総額	

■段階整備概要・段階工事費内訳

単位：千円

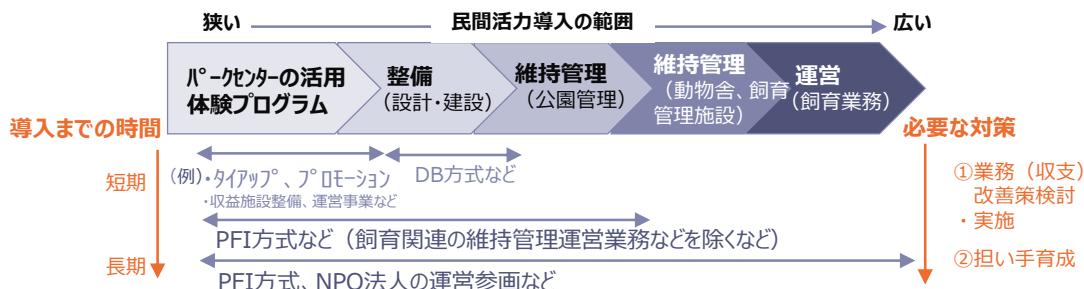
段階	主要施設	土木工事	建築工事	合計
第1期	① 展望広場部整備 (デッキ・休憩施設・外周柵・トイレ等) ② インフラ本管整備、仮設病院、 パンシェ・マー毛舎撤去、舗装復旧等 ③ 既存バックヤード施設撤去、 キュービクル、受水槽、動物病院、動物 保護施設・隔離施設、調理室等新設			
第2期	④ キジ舎、ラマ舎、ヤギ舎、ロバ舎、 小獣舎、詰所 ⑤ 猛禽類・クジャク舎、周辺外構一式			
第3期	⑥ サル舎、レムール舎、パンシェマー毛舎 ⑦ カメ舎、インコ舎、小動物舎、シカ舎、 周辺外構一式			
第4期	⑧ マーコール舎、レッサーパンダ舎、 ペンギン舎ポンプ室、ろ過器 ⑨ ペンギン舎		事業費に関して 調整中	
第5期	⑩ フラミンゴ及び周辺外構一式 ⑪ シマウマ舎 ⑫ 動物園エリア主園路 ⑬ 動物園エリア照明灯一式 ⑭ 幼児用大型遊具・児童用大型遊具 ⑮ 舗装広場改修 ⑯ 慰靈塔周辺舗装改修など ⑰ 休憩施設・サービス施設等一式 ⑱ 北公園改修 ⑲ 東公園改修 ⑳ アプローチ・散策路改修 ㉑ 樹林地整理 ㉒ サインなど			
工事費 合計				
消費税				
工事費 総額				

基本的な考え方

川崎市では、「民間活用(川崎版PPP)推進方針(令和7年)」および「パーカマネジメント推進方針(令和3年)」に基づき、官民連携による適切な事業手法を検討し、適用する業務の性質や安全性、費用対効果などを十分に考慮した上で、民間活力の効果的な導入を進めています。

■これまでの検討

令和4年度及び令和6年度に行なったPPPプラットフォームの意見交換会では、施設整備に関しては「参入に効果的なスペースや動線」、管理運営に関しては「自然や生き物を活かした教育プログラムを展開の可能性」などの意見を頂いており、**公園施設整備における民間活用事業への意欲のある事業者は確認できませんでした。**



■本事業の性質の整理

項目	内容
施設・事業目的	より一層の魅力向上と市民サービスの向上を図ることなど
事業内容	老朽化した動物公園施設の新築及び改修、持続可能な管理運営スキームの構築など
事業規模	約6.6ha (ふもとの公園や樹林地などを含む)
運営方針	動物公園の機能をより強化するため、一部業務の民間との協働を検討
事業方針	公園、動物舎と動物病院などの機能向上と充実、安全性の確保など
魅力・ポテンシャル	野鳥や昆虫など多くの生きものが生息する里山樹林に囲まれた動物公園であり、古墳などの歴史的資源や景観を有している
課題	入園料が無料であり、歳入が限られていること、民間の独自事業を実施する空間的余地が少ない

再整備の事業手法

本事業は、敷地内の複数施設について飼育動物を移動させながら毎年、順次、施設毎に改修整備をおこなうため、**一括発注の効果が限定的**です。さらに、動物舎や病院施設などは特殊な施設で、仕様を定める点が多くなり、**民間ノウハウの活用やコスト縮減が期待できず、一括発注の効果が限定的で工事期間短縮などがそれほど期待できないことがわかりました。**

また、飼育動物に配慮した整備が求められることなどから、民間活用事業に参画を希望する事業者が確認できておらず、**一体的・包括的な整備や維持管理が困難**です。一方、従来手法で実施した場合は、円滑な動物園業務に的確に対応できる設計が容易であり、**地域経済の活性化の観点から市内事業者の参画が見込まれます。**

以上より、今後の夢見の整備は**従来方式により実施すること**とします。

■整備手法の検討に係る簡単な検討結果

評価項目	整備手法	従来方式	DB方式	DBO方式
施設用途への対応	○	×	×	×
スケジュール	○	○	○	○
事業者参画	○	×	×	×
地域経済の活性化	○	△	△	△
事務負担	○	○	○	○
コスト	○	○	○	○
評価	○	△or×	△or×	△or×

運営の考え方

再整備により、広場や休憩施設、情報発信拠点を整備し、多様なプログラムを開催しやすい環境をつくります。これまで夢見では様々なプログラムや情報発信に取り組んできましたが、一部は飼育業務と両立しながらプログラムを開催することが難しい場面もありました。

今後は、民間パートナーのノウハウを活用して“いのちを感じる”体験プログラムを拡充し、施設の魅力を高めます。これによりリピーターの増加や新たな収入源の確保を目指します。

プログラムは園内講座やイベント、飲食・物販に加え、広報活動やコンテンツ配信、オンラインでの販売やイベント開催など、多様な手法で幅広いターゲットにアプローチします。

参入における主な課題整理 (R7年度ヒアリング)

- **人員確保と技術の問題**
 - ・飼養管理には専門性が求められ、人材確保・育成コストが高い。
 - ・特に希少種の取扱いやアーバンワイルド配慮の観点から高度な知識・経験が必要。
- **財政面の懸念**
 - ・現状予算では、人件費・光熱費・修繕費などをカバーできず、持続的運営が困難。
- **動物とのふれあいプログラムの課題**
 - ・アーバンワイルドへのエビデンスの提示が必要。
 - ・「ふれあい」には、配慮と説明責任が求められる。
 - ・現行の運営体制からの転換リスクがある。
 - ・いきなり指定管理に移行すると事故・クレーム・混乱の恐がある。
 - ・「段階的な参入」が安全かつ望ましい。

具体的な取組例

夢見すでに実施している取組の強化に加え、新たなプログラムの展開、魅力発信も進めていきます。

新たな取組例

教育普及プログラム

現在も実施している保育園・幼稚園・小学校への教育活動（動物園）

+

- ・動物の季節による違いさがし
- ・負傷鳥類を用いた救護活動説明
- ・餌づくり体験
- ・歴史のガイドツアーなど



公園いきもの探し

地域との連携

現在も実施している取組の推進

- ・花壇植栽などのボランティア
- ・パークセンターの保育サークル活動
- ・動物園まつりなどのイベントでの連携
- ・ゆめみらい交流会などの連携
- ・傷病野生鳥獣の保護

+

- ・飼育動物や古墳など歴史資源、加瀬山の生きものの写真やイラストを使用したグッズ
- ・キッチンカーとのコラボによる夢見のオリジナルフードメニュー
- ・写真集、画集、絵本制作



ゆめみらい交流会の様子



グッズの例

広報・SNS

現在も実施しているゆめみニュースなど広報誌の配布、閲覧とSNS発信

+

- ・HPやパンフレットのリニューアル、SNS発信の見直し
- ・ゆめみニュースをまとめた冊子制作
- ・主要駅などまちなかでの広告出稿
- ・動物の鳴き声など公園の音を使った広告や広報



駅での広告出稿（ズーラシア）

季節ごとのプログラム

現在も実施している動物園まつりや飼育の日イベントなど

+

- ・春～秋の蝶や夏鳥の飛来観測
- ・夏季のナイトパーク（夜の加瀬山の動物たち）
- ・秋のツリークライミング
- ・枯れ枝や落ち葉の工作教室
- ・パークレンジャー



ツリークライミング

デジタル技術の活用

夜行性の動物が活発に活動する夜間にLIVEカメラで観覧、動物の寝室をのぞき見

- ・普段見られない角度からの観察
- ・デジタル技術を用いた骨標本と実物の見比べ
- ・動物の見守り機能（動物がこんな行動をしていたなどを報告してくれるしくみ（サポート活動の新たな領域）
- ・大学の調査研究とのコラボ



LIVEカメラ
(鳥羽水族館)

来園者・ファンの獲得イメージ

「いのちを感じる」プログラムの充実

夢見を「知る」

夢見を「知る」

夢見に「来る」

夢見を「理解」

夢見に「また来る」

夢見を「応援」

動物のいのちの実感

プログラムへの共感

「いのちを感じる」

再整備後の管理・運営

再整備後の維持管理・運営は、民間事業者などの柔軟な創意工夫やノウハウが発揮されるよう、体験プログラム及び一部飼育業務において段階的に民間事業者と連携します。

■包括的な歳入確保

これまでにサポーターや多くの地域の方々と培ってきた経緯から、これらのノウハウに基づき、事業者や地域の方々と「協働で共に育っていく」官民パートナーシップを目指します。なお、各対象に適する制度・手法の組み合わせについては、民間パートナーなどと対話をしながら検討を進めます。

■管理運営の対象・制度・手法の整理

対象		内容	役割分担 (案)	動物園の機能
動物園	獣医業務	動物治療・獣医学的措置、動物のコレクションプラン、動物収集及び傷病鳥獣の保護・野生復帰	市	種の保存 教育・環境教育
	飼育業務等	動物飼育業務、公園施設維持管理、安全確保、公園ブランド構築、プログラム実施、営業、接客サービス等		調査・研究 レクリエーション 民間と協働で強化する
公園	植栽・施設管理	植栽や施設の管理、安全確保等	引き続き検討	
	駐車場	駐車場の管理、運営等（予約制の検討を含む）		民間パートナー

※夢見ヶ崎動物公園再整備計画骨子より

■包括的な歳入確保にむけた検討

- 「クラウドファンディング」「サポーター制度の拡充」「寄附」「ネーミングライツ」などの付加的な官民連携の手法について、効果的に実施します。
- 公園管理の協働として、飼料などの調達の連携、広報活動、パークセンター内の販売などの協働の可能性を引き続き検討します。
- 飼育業務関連のDX化、自動給餌機の導入など新技術を適宜検討し、アニマルウェルフェアの向上や、より効率的な管理運営を目指します。
- 自然災害、高病原性鳥インフルエンザの発生など、有事の際にも飼育管理業務を継続的に行うことができる設備や体制の確保を検討します。
- 有料体験プログラムの導入や駐車場の有料化について、動物飼育などに還元できる、持続可能な経営の視点を踏まえた仕組みを検討します。
- 動物介在教育を公共サービスとして提供することの妥当性を踏まえ、動物を介した体験プログラムの充実を検討します。

事業範囲

事業範囲の基本的な考え方

獣医療・種の保存など高い専門性が必要な業務や、採算性などで民間が受けられない業務については引き続き市が直営で実施します。公園施設の維持管理や安全確保、各種プログラムの実施、営業、接客サービス、駐車場などは民間パートナーとの協働により充実させます。

■民間事業者との連携範囲



管理運営手法及び期間の検討

■管理運営手法（飼養管理及び施設維持管理）

令和6年度に実施したPPPプラットフォーム参加民間事業者との詳細な対話の結果、「指定管理制度での業務へ即時参入は、運営の効率性や来園者への影響、動物飼育及び健康管理面など、多方面でリスクがある」ことが明確となりました。一方、夢見の利用者の多くに求められている、加瀬山を活用したいのちを感じる体験プログラム、及び動物の飼育業務の丁寧な民間への移行（飼養管理）をすることで、夢見のより一層の魅力向上と、持続可能な運営のための歳入確保へつなげていきます。



■管理運営手法（駐車場）

令和6年度に実施したPPPプラットフォームの参加者である民間事業者との詳細な対話の結果、周辺公共施設（日吉合同庁舎など）と連携のうえ、設置許可制度を活用し、駐車場の有料化を進める方針とします。具体的な施設の利用料金については、市の承認を得て決定することとします。

13. 事業スケジュール

※夢見ヶ崎動物公園再整備計画骨子「9.再整備の進め方」に対応

30

再整備計画を令和7年度に策定し、令和8年度から整備に向けた基本設計などの取組を進めます。民間パートナーとの協働は令和9年度からを予定し、民間パートナーの選定に向けた条件や連携範囲・手法などの検討について再整備計画に位置づけます。駐車場は近接する日吉合同庁舎の臨時駐車場との連携を検討します。なお、動物の飼育状況によっては施設配置の計画を適宜見直すものとし、スケジュールについても今後、詳細設計や施工計画などにより変更が生じる場合があります。

■事業スケジュール

年度 項目	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)	R12 (2030)	R13 (2031)	R14 (2032)	R15 (2033)	R16 (2034)	R17 (2035)	R18 (2036)	R19 (2037)	
事務的 スケジュール	再整備計画骨子	→ 市民意見の募集	再整備計画策定	導入準備	民間パートナーとの協働	駐車場や体験プログラムなど 民間パートナーとの協働									
施設整備	先行整備	→	基本設計	詳細設計	第1期工事 ①②	第1期工事 ③	第2期工事 ④	第2期工事 ⑤	第3期工事 ⑥	第3期工事 ⑦	第4期工事 ⑧	第4期工事 ⑨	第5期工事 ⑩～⑬	第5期工事 ⑭～⑯	
関連 スケジュール	秋	春			埋蔵文化財 調査		埋蔵文化財 調査		埋蔵文化財 調査	埋蔵文化財 調査		埋蔵文化財 調査			
動物種数 (自然減想定)					51種 (R7.3月時点)									約45種	